科目名	病態治療論Ⅲ	講師	非常勤講師
履修時期	1年　後期	単位数	1
		時間	30

＜科目設定理由＞

病態とは、疾患の原因である病的な状態あるいはその発生機序をいう。一般には「病気」」と表現され、人体の正常性が器質的または機能的に破綻した状態とされる。これに対し治療とは、人体にもともと備わっている治癒力を助けるものであり、患者の病態を改善し健康を回復するための医師による行為を指す。

看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するための働きかけを行うには、患者に出現している症状や徴候を的確かつ詳細に観察し、疾患や治療が患者の身体的・精神的・社会的側面におよぼす影響を捉えなくてはならない。よって患者に合った看護を実践するためには病態と治療についての理解は不可欠といえる。そこで、疾患の種類を組織・器官の系統別に分け、病態・検査・治療に関する知識の獲得をねらいとして科目を設定する。

ここでは『病態治療学Ⅲ』として、脳神経疾患/運動器疾患の病態・検査・治療について理解する。

学習目標	①脳神経疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と、それらが生体に及ぼす影響が理解できる。 ②運動器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と、それらが生体に及ぼす影響が理解できる。
学習内容	**【脳神経】**…14時間 1．主要症状と病態生理 ①運動障害 ②言語障害 ③嚥下障害 ④排泄障害 ⑤意識障害 ⑥頭蓋内圧亢進症状 ⑦高次機能障害 2．主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①脳血管疾患（脳内出血・脳梗塞・クモ膜下出血・TIA） ②脳腫瘍 ③頭部外傷 ④水頭症 ⑤パーキンソン病 ⑥筋萎縮性側索硬化症 ⑦重症筋無力症 **【運動器】**…14時間 1．主要症状と病態生理 ①神経麻痺 ②疼痛 ③腫脹 ④運動麻痺 ⑤知覚障害 ⑥変形（拘縮） ⑦歩行異常（跛行） 2．主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①骨折 ②脱臼 ③捻挫・打撲

	④脊椎損傷 ⑤変形性膝関節症・変形性股関節症 ⑥椎間板ヘルニア ⑦骨腫瘍 終講試験
授業形態	講義・グループワーク
評価方法および評価の観点	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　成人看護学⑦「脳・神経」、成人看護学⑩「運動器」医学書院
参考資料・図書	授業資料がある場合は、適宜印刷して配布する。
履修上の留意事項・受講条件	複数の講師で担当するので出席時間等は自己管理し欠席等のないように授業に臨むこと。 特に解剖生理学の知識と繋げて理解するために、予習・復習を欠かさず行うこと。